

6/14 毎日

許可差し止めを

八国見山 秦野市長に4団体 霊園開発

秦野市渋沢の八国見山(319㍍)南面区域での大規模霊園建設問題で、開発に反対する「渋沢丘陵を考える会」など市内の自然保護グループ4団体が13日、建設に関して手続き上の問題があったとして、開発許可書発行の差し止めを求める要望書を古谷義幸市長に提出した。

【高橋和夫】

第三者機関の検証要望

要望書や各グループリアルパーク(愛川町)とされているが、霊園開発計画が浮上り、墓地造成を計画し、用地買収を進めた実質的な事業主体は、湘南地域にある造園事業社だった。

では、墓地の経営主体は原則、地方公共団体や宗教法人、公益法人などに限られ、株式会社は認められていない。造園会社は事業種目に霊園経営の核心的領域である「霊園の造成」「霊園の維持・販売管理」を掲げている。造園会社が99〜2003年にかけて実施した地元住民への説明会や見学会に、市職員が少なくとも11回オブザーバーとして参加していたことから、要望書では「市が事実上、墓葬法に違反する会社の行為を容認してきた」と言及。さらに造園会社が02年12月に地元住民に提出した文書で、霊園とは別に土地改良事業を行う場合は「資金的なことほもとより全面的に協力する所存」と金銭供与を申し出ていたとしている。

また、霊園開発計画が市民の関心が高い重要な案件であるにもかかわらず、市まちづくり条例で定める「まちづくり審議会」や、環境基本条例で設置されている「環境審議会」

に諮られなかったこと、また、第三者機関による専門的な検証を要し、文書での回答を求めた。